緑・水・大気・ごみと資源・エネルギー・ひと

おうめ環境ニュース vol.17

おうめ環境ニュース（令和7年3月15日発行）
発行：青梅市環境政策課／おうめ環境市民会議
所在地：東京都青梅市東青梅1－11－1
電話：0428－22－1111（内線2536・2537）

1面：青梅にすむ野鳥たち
2～3面：知っておきたい環境問題：大切にしたい日本の自然環境と生活文化　基調講演：東京で唯一の炭鉱！が青梅にあったお話
4面：外来種について考えよう

トビ

タカ目タカ科　留鳥
体長：オス60cm、メス70cm

翼を開くと160cmにもなる大型のタカ。全身が濃い褐色で翼の内側に白い帯が走っている。飛んでいる時には尾羽が三角形に見えるのが特徴。海岸に多く、河川でも生息します。大きな翼を活かし上昇気流に乗ってあまり羽ばたかずに上空から餌を探して「ピ～ヒョロ・ロ・ロ・・・」と特徴的な声を響かせます。他のタカ類と異なり、生きたネズミ・カエル・小鳥を襲うのは稀で、死骸や残飯、ゴミなどを食べる掃除屋のため、「トンビがタカを産む」など、どこにでもいる平凡な親から優れた子が生まれる例えのように二流扱いされてきました。狙う獲物が共通しているカラスとよくケンカをします。視力が良く、人が手に持っている食べ物を、上空から狙いを定め、素早く奪い取り急上昇するハンターとしての巧みさがあるので要注意！

【写真：神山利文氏】　令和2年12月撮影。

青梅にすむ野鳥たち

イソヒヨドリ

スズメ目ヒタキ科　留鳥（北海道では夏鳥）
体長：23cm前後

オスは頭から胸、背、腰までがコバルトブルーと腹は赤茶色、翼と尾は黒っぽい。メスは全体が灰褐色で、背は腹よりも黒っぽく、鱗状の模様が沢山あります。海岸の磯や崖、堤防などに住み、北日本では冬に暖地に移動。15年ほど前から内陸部に進出して繁殖を成功させています。
繁殖期の春になると、「ピーツツピーピー」「ピュルピュルピピーポー」と複雑な旋律で美しくさえずります。青梅駅、東青梅駅、河辺駅、日向和田駅、二俣尾駅など駅前周辺で営巣しています。駅前が人気なのは、高い建物からさえずるとよく響くからです。人間の生活圏内で繁殖することも多く、5月初旬に産卵し、夫婦で子育てをします。繁殖期以外は1羽で生活し、人が近くにいてもあまり気にしないようで身近に観察できます。餌を捕らえて食べる時には降りてきて、地上で昆虫などを食べます。

【写真：神山利文氏】　令和2年4月撮影。

おうめ環境フェスタ２０２５開催予定

環境月間のパネル展示

おうめ環境フェスタは、自然と共生するくらしの提案や、環境活動に関わる人々のネットワークづくりを目的として開催しています。
今年も６月の環境月間中に、市役所１階ロビーで環境保全団体のパネル展示を行うほか、「おうめ環境マップ」のリニューアルに伴う掲載団体・法人の追加募集、講演会の開催を予定しています。
詳細は、今後の広報おうめなどでお知らせしていきます。ぜひ、ご参加ください！

「おうめ環境マップ」
市役所で配布しています